



- 口腔ケアは、虫歯・歯周病予防、リハビリ効果、食欲増進、唾液分泌促進、感染予防・肺炎予防、病気になるにくいため医療費の低減にもつながります。しかし、私達の行う口腔ケアは、各人によりバラツキがあり、特に、寝たきり、口腔乾燥、麻痺のある要介護高齢者の方を介助する場合困難です。
- 手技の統一のためには、口腔アセスメント（口の中を観察して、状態を記録すること）を数値化したり、正しい口腔ケア技術を学んだり、歯科医師や歯科衛生士との連携を、行う必要があります。
- その時のツールとして、『オーハット(OHAT)』という
- 8項目の検査があり紹介したいと思います。
- 1、まず口唇の観察。口角の乾燥やひびわれがあれば、スコア1(変化)、潰瘍や出血があれば、スコア2(病的)、正常はスコア0(健全)。
  - 2、舌の観察。舌苔があれば、スコア1、潰瘍や出血があれば、スコア2、正常はスコア0。
  - 3、歯肉と粘膜を観察。乾燥や発赤、部分的腫れがあれば、スコア1、広範囲な腫れ、出血、歯の動揺があれば、スコア2、正常はスコア0。
  - 4、唾液では、ベタついたり泡状であれば、スコア1、ひからびた状態はスコア2、正常はスコア0。
  - 5、残存歯では、虫歯等なければ、スコア0、3本以下なら、スコア1、4本以上なら、スコア2。
  - 6、義歯について、普通に使用できれば、スコア0、一部破損あれば、スコア1、義歯が使用できない、紛失したり破損していれば、スコア2。
  - 7、口腔清掃で、歯石や歯垢がなければ、スコア0、数本に歯石等あればスコア1、4本以上なら、スコア2。
  - 8、歯痛なければスコア0、少しあればスコア1、強い痛みあれば、スコア2。
- 合計点数(0〜16)を継続してみています。
- 口の機能が低下すると、食べにくくなり、栄養低下、活動量もへり、転倒、骨折のリスクが高まります。口腔機能低下を、早期発見、早期対応するためのツールです。
- 口は命の入り口、心の出口とも言われます。おいしいものを食べて、豊かなコミュニケーションができますように。

10月24日 食事会で鮭のちゃんちゃん焼きを作りました。味噌の香りが食欲をそそりました。



感染症対策を実施した上で、秋祭りを開催いたしました。

たこ焼きや、綿菓子、スイーツを頂き、ボールゲームで、景品をもらいました。



11月6日

## あじさい園

### 秋祭り

